

平成25年度第1回埼玉県スポーツ推進審議会【議事録】

日時：平成25年11月15日（金）午後3：00～4：45

場所：埼玉県県民健康センター 中会議室

【議 事】

（1）報告事項

ア 本県のスポーツ実施率について

イ 本県の競技力について

（ア）平成25年度全国中学校体育大会の結果について

（イ）平成25年度全国高等学校総合体育大会の結果について

（ウ）第68回国民体育大会の結果について

ウ 豊かなスポーツライフの実現に向けて

（ア）第82回全日本フィギュアスケート選手権大会について

（イ）ISU世界フィギュアスケート選手権大会2014について

（ウ）ラグビーワールドカップ2019について

（エ）その他

（2）協議事項

ア 日本スポーツマスターズ2014埼玉大会の開催を契機とした本県のスポーツ推進について

【出・欠席委員】

（1）出席委員（14名）

小澤治夫委員（会長）、三戸一嘉委員（副会長）、河本弘委員、
清雲栄純委員、重田博委員、須賀敬史委員、竹内晃治委員、
友清創委員、樋口竜也委員、兵藤明子委員、深谷隆委員、
星野明弘委員、島村穰委員、福島弘文委員

（2）欠席委員（6名）

伊倉晶子委員、石原美弥委員、富松理恵子委員、藤倉二三男委員
丸山正董委員、和田洋子委員

1 開会 司会 市町村支援部スポーツ振興課副課長 大沢正雄

2 挨拶 市町村支援部副部長 新井彰

3 議事

本審議会規則6条3項の規定により本審議会が成立することが確認される。

小澤議長より、本審議会規則7条の規定に従い、会議は原則公開であることを確認する。事務局に傍聴希望者の有無を確認したところ、傍聴希望者はなし。

続いて、本日の議事録の署名委員を兵藤明子委員と深谷隆委員にお願いをする。

(1) 新任委員挨拶

平成25年4月から新たに委員となった須賀敬史委員から挨拶をいただいた。

(2) 報告事項

アについて、事務局から資料1及び追加資料をもとに説明した。

○ 清雲委員

スポーツ実施率が48.9%という話だったが、他県と比較して本県はどのくらいの位置にいるのでしょうか。

○ 小澤議長

私のほうから御回答申し上げます。笹川スポーツ財団が、毎年、全国のスポーツ振興に係る調査を行っています。データの取り方は様々で、単純に比較できませんけれど、週1回以上の定期的な運動をしている人は、全国平均でだいたい50%強を推移しています。

ですから、それに比べますと埼玉県は全国平均には届いていないのかなと思います。ただ、各都道府県のデータは出ておらず、全国平均ですので、これをどう読み解いたらよいかは、もう少しよく見てみないと分からないところです。

いずれにしても、以前は、全国平均と比べるとスポーツに関わる人が少なかったのが、だいぶ全国平均に追い付いてきたということが言えると思います。事務局に代わりまして回答しました。

○ 竹内委員

清雲委員と全く同じ質問をしようと思いました。全国目標に比べると低めにとっているということでしたので、全国の状況と比べてどうなのかと思いました。小澤会長のお話のとおり、全国平均より埼玉県の方が低いということであれば、この目標でいいのかなと感じました。

イについて、事務局から資料 2～4 及び「スポーツ埼玉 vol.262」をもとに説明した。

○ 小澤議長

「スポーツ埼玉」の冊子については、一昨日、大学の事務室で見つけまして、「埼玉県にはこんな冊子があるのか」と思い、事務局にこの審議会でお配りしてもらおうようお願いしました。

東京も神奈川もこのような冊子は送ってくれないのですが、埼玉県だけ送付がありました。埼玉県では、この冊子をどのように活用しているのでしょうか。

○事務局（スポーツ振興課）

この冊子は、県体育協会から提供を受け、11月13日に行われた国民体育大会埼玉県選手団の解団式・表彰式において、競技団体の会長にお配りしました。また、知事、副知事、県議会議長など県関係者にもお配りしました。各競技団体にも3部ずつ配布させていただきました。

○ 小澤議長

冊子の1ページ目には、国体埼玉県選手団の副団長として、三戸副会長が賞状を受け取っている写真があります。せっかくですので、三戸副会長から補足などありましたらお願いします。

○三戸委員

「スポーツ埼玉」については、年3回ほど発行いたしております。年度当初に、その年の県体育協会の方針などを載せたものを発行し、次に、国体終了後に成績を紹介する号を発行しています。また、年度末に御活躍いただいた功労者や選手へ「体育賞」の表彰がありますので、その様子を3月末に発行するもので紹介しています。

だいたい5,000部ほど印刷いたしまして、関係する機関、傘下の団体や賛助会員として寄付をいただいている方々に配らせていただいているところでございます。toto（スポーツ振興くじ）の助成も活用し、今後、もう少し充実させていきたいと考えているところでございます。

ウについて事務局より資料5・6及び追加資料を基に説明した。

○ 友清委員

ラグビーワールドカップについて、熊谷ラグビー場を会場として使ってほしいという動きがあるが、観客の収容人数の規定を満たしておらず、その後、日本ラグビー協会の森会長が、仮設のスタンドでもなんとか規定をクリアできるのではないかと聞いたという報道があったと思います。

招致をするならば、ラグビー場の改修が必要だと思うのですが、実現性はあるのでしょうか。熊谷スポーツ文化公園の陸上競技場で開催するほうが、開催に問題がないんじゃないのかとも思うんですが。ラグビーの専用スタジアムということで、熊谷ラグビー場を使いたいというのも分かるけれども、どのような形で話が進んでいるのか、現段階での状況を知りたいのですが。

○事務局（スポーツ振興課）

熊谷ラグビー場の収容人数の話につきましては、現状では、立ち見を含めて2万4,000人となっています。実は、2015年に開かれるイングランド大会におきましては、収容人数1万2,300人の所が試合会場になると聞いています。イングランド大会においても1万人台のスケールの所から試合をやるということもございまして、日本組織委員会からは、日本大会についても、そのあたりは、かなり柔軟に考えていきたいという話は聞かされております。

先だって、会場選定のガイドラインが発表され、一部報道にもございましたが、基本的には2万人というような線があるというように聞いております。新国立競技場で開会式をやる決めておるようですけども、新国立競技場は8万人収容といわれております。上についてはそのような規模ですけども、下については2万人程度という話が伝えられているところでございます。

○友清委員

2万人というのは立ち見じゃなくて、着席の収容人数ですよ。

○事務局（スポーツ振興課）

現在、座席については、芝生の立ち見の状態でございます。そこに、仮設か否かは別として、個々の椅子を作るのかということについても、これから組織委員会と相談することになります。必ずしも芝生はダメだとか、個別の椅子でなければいけないかということについては、まだ話が進んでいない状況でございます。

○ 友清委員

恐らく、非常に政治的なことが重要になってくると思うので、知事や議員の方にも強く働きかけていただければと思います。サッカーで一度ワールドカップを開催しましたが、世界的な大会を埼玉で開くというのは、非常に重要なことだと思います。おおいに期待しておりますので、よろしくをお願いします。

○ 小澤議長

須賀委員はラグビー招致議員連盟の会員であると伺っているのですが、友清委員の御質問に関連して、なにかお話することがありましたらお願いします。県議会でもフィギュアスケート等について特別委員会などでもいろいろ話題が出ていると思うのですが、そういったことも含めまして、御意見をいただくことができればと思います。

○ 須賀委員

まだ議連としては立ち上がったばかりでありまして、12月県議会の開会中に行われる議連の総会で、今後、どういうふうに進めていくのかということも具体的になっていくと思います。

○ 福島委員

埼玉マラソングランドスラム協議会について、この協議会に加盟していると、例えば招待選手とかゲストで川内選手に来ていただきたいときに、協議会のほうでバックアップしていただけるのでしょうか。

私たちの町でも、ロードレースを40回ぐらいやっていますが、参加者や役員からは、川内選手をなんとか呼べないかという話があります。そういった選手やゲストの招待に、携わっていただけるのかお聞きします。

○事務局（スポーツ振興課）

川内選手へのお誘いや今の御要望のようなお話は、県内外を問わず大変多くいただいております。なにぶん、川内選手は一人しかいないものですから、なかなか全ての御要望を満たせるような状況にはございません。ただ、マラソングランドスラム連絡協議会を通じて各市町村に“川内プロデュース”的なものを発信できればいいなと思っております。また、そういったなかで、当然のことながら、都合が許せば、本人が出場するといったこともあろうかと思えます。今のところはそういう御要望をいただいておりますとどまるのかなと思えます。

○ 福島委員

小さい町では、そういうことまでやっていただけると、大会を運営していくほうも大変助かると思えますので、お願いをしておきたいと思えます。それから、9月2日に1回目の協議会を開催して、10月18日現在、38市町が加盟ということですが、順次、加盟市町村を増やしていくということですか。

○事務局（スポーツ振興課）

埼玉マラソングランドスラム協議会は、当初、全ての市町村に加盟の御意向をお伺いいたしまして、現時点では、このような結果になっております。今後、取組がいろいろな場面で見えてくる部分もございますので、新たに加盟したいという市町村があれば、どんどん受け入れてまいります。

○ 河本委員

ラグビーのワールドカップに期待を申し上げたい。私は、2002年のサッカーワールドカップの埼玉会場の競技運営をさせていただきました。あれだけ立派なスタジアムが、多くの方の御理解のもとにサッカー専用ということで建設されました。当時、財政状況は非常に厳しかったと思えますけれども、結果として、今、日本を代表するチームの聖地という形で、大会後の利用も順調にしております。あのような施設があることによって、子供たちが生で素晴らしい大会を専用性のあるスタジアムで観戦できます。自治体が管理するものですから、多目的に利用するのは大いに結構なんですけど、陸上競技場は陸上競技場として活用していただきたい。ラグビーの専用のスタジアムでラグビーワールドカップが開催されるという意義が大きいんじゃないかというように思います。

願わくば、例えばバドミントン専用アリーナですとか、バレー専用アリーナですとか、そういったものが一つでも多くできることが、望ましいと思います。ワールドカップを契機として、専用性のある施設の充実をいろいろな形で実現するようなムーブメントを起こしていただけると、後々、有形、無形の財産が残るのではないかと思います。

○ 清雲委員

フィギュアスケートのビッグネームが2回続きます。本県は特別共催ということですがけれども、経済予測をたてられているのかどうかお聞きしたい。常設リンクではないのに開催するという事に非常に興味があります。

○事務局（スポーツ振興課）

世界大会は別として、全日本フィギュアスケート選手権大会は、これまで、フルシーズンかどうかは別にして、常設のスケートリンクで開催されておりました。これが、さいたまスーパーアリーナで開催されることとなったきっかけは、ジャパンオープンという大陸対抗の大会をここ何年か継続的にさいたまスーパーアリーナで開催してきたという実績があるということが挙げられます。また、技術の進歩で、仮設のスケートリンクを2・3日でフルに凍らせて、すぐに使えるようになってきたという点があります。

それから、客席数で見ますと、今までの常設リンクは1万人規模でしたが、さいたまスーパーアリーナでは、その1.5倍ぐらいの客席を確保できるということがあります。このようところが、開催者側にとって魅力に映るような状況になっており、それが大きなきっかけとなったというように聞いております。

最近では、開催を希望する自治体等が強い希望や支援をもって大会を引っ張ってくるということが、多いように聞いております。今回のフィギュアスケート大会は、県が引っ張ってきたのではなく、さいたまスーパーアリーナの施設の魅力にスケート連盟が着目し、さいたまスーパーアリーナでぜひやりたいという話から始まったという経緯がございます。

経済的支援については、ほかの自治体と比べてどうかということは別にして、資金面の協力としては、さいたま市と共同で2,000万円程度でございます。

○清雲委員

技術が進んだということと、観客の収容能力の問題、これまでの実績があるということですね。これに対して、本県のスポーツ振興に関わる資金をこの大会から頂けるのでしょうか。

○事務局（スポーツ振興課）

大会を開催したことで、埼玉県にいただけるお金は、残念ながらありません。

○小澤議長

目に見える部分はないでしょうけれども、目に見えない部分の埼玉県のスポーツ振興に関して非常に大きな貢献があるだろうと思います。

○事務局（スポーツ振興課）

かなりの観客動員数になりますので、そういう意味では、経済波及効果はかなり大きいと考えております。

（3）協議事項

○事務局（スポーツ振興課）

それでは、協議事項について御説明をさせていただきます。

本日、協議をいただきたいのは、「日本スポーツマスターズ2014埼玉大会の開催を契機とした本県のスポーツ推進について」というテーマでございます。このテーマにつきましては、前回、3月の審議会において御承認いただきました。

日本スポーツマスターズ大会は、来年9月に本県で開催される大会でございます。

この大会は、主に30代・40代といった働き盛りの年齢層が活躍するスポーツイベントでございます。特に働き盛りの県民のスポーツ実施率が低いという埼玉県の実状がございますので、全国から集まる中高年のスポーツマンが活躍するマスターズ大会の開催を通じまして、県民のスポーツ実施率の向上、ひいては本県の目標としております、「スポーツを通じた元気な埼玉づくり」の実現のため、どのような事業展開をしたらよいか、また、事業終了後の普及浸透のための工夫はどうしたらよいか、委員の皆様には御意見を頂戴できればと考えております。

日本スポーツマスターズ2014埼玉大会の概要について事務局より資料7を基に説明した。

○小澤議長

国体やインターハイなどと比べますと、8,000人参加するという大会の割には、まだ知名度、なじみがないのではないかと思います。どう広報していくかが重要だと思います。

西武ライオンズで広報部長をやっていた竹内委員がいらっしゃいますので、御要望なり、注文なり、こうしたほうがいいんじゃないかということについて、いかがでしょうか。

○ 竹内委員

おっしゃるとおり、広報活動が重要だと思います。シンボルメンバーの方々、お忙しい方々ですけれども、その方々の活躍する場の情報が共有できていれば、その場で上手くスポーツマスターズ大会についてのコメントや意義を付け加えてもらえるようなチャンスもあります。大会期間中はコメントを言うと思うんですが、積極的にアプローチして、事前に広報してもらうということをはっきりお願いしないといけないと思います。そういう場を作ることはなかなか難しいけれども、通常の活動のなかでできると思います。例えば、衣笠氏がテレビ番組に出るときにはマスターズ大会に関することをひとこと言ってもらうとか、それぐらいのことをやってもらうという気持ちでいかないと、広報的には難しいのかなという気がします。参考にさせていただければと思います。

○ 兵藤委員

私はバスケットをずっとやってきているのですが、友人がスポーツマスターズ大会に出ておりますので、スタートした時からスポーツマスターズ大会に注目しています。

先ほど、2001年から始まったと説明がありましたが、その時に、こういう中高年でも目標を持った大会ができたんだなってすごく印象にあったんですけども、それ以後あまり話題に上らなかったと思うんですね。スタートした時は、全国的に広めて、そのあと、開催県ではアピールしていたと思うけれども、開催が終わると次の年からはその県では何も広報活動をしていなかったのかなと思います。ぜひ、埼玉県では、開催した後もフォローしていただけるといいかなと思います。

それから、出場している人から聞いた話では、金銭面でのバックアップがないということで、ユニフォーム代から旅費まで、全部自分で出さなくてはいけないという話を聞いたことがあります。トップアスリートではない人たちではありますけれども、ぜひ金銭的なバックアップもしていただけたら盛り上がるのかなと思いました。

○ 小澤議長

スポーツマスターズは全国大会なのですが、県民大会もあるのでしょうか。

○ 事務局（スポーツ振興課）

マスターズ大会と銘打っているわけではないですが、日本スポーツマスターズ大会に出場するための予選としての性格を持つ大会というのは、各競技で開催されております。

○ 小澤議長

先ほど兵藤委員がおっしゃられたように、大会後の広報ということを見ると、県大会のような予選に「スポーツマスターズ」という冠をつけていくと、知名度も上がって周知されていくのではないかなと思います。

○ 島村委員

大会の競技種目は13競技となっておりますが、日韓交流事業は10競技なのでしょうか。

○ 事務局（スポーツ振興課）

日本マスターズ大会としては、13競技開催されます。そのうち、日韓交流事業を開催しているものが、10競技です。

○ 島村委員

ゴルフと水泳と空手は日韓交流事業を開催しないということですね。

○ 樋口委員

スポーツマスターズ大会について、大会をPRしたいのか、県民の皆様が参加するようになりたいのか、県の方向性を伺いたいと思います。また、スポーツマスターズ大会は、勝敗を気にしていない大会なのか教えて下さい。

○ 事務局（スポーツ振興課）

勝敗ですが、この大会は、競技を本格的にやられている方が、レクリエーション的ではなく勝敗をつけて競い合いたいという趣旨から始まった大会でございます。パンフレットのキャッチフレーズにも「魅せてやれ、これが大人の本気の勝負だ」とあるように、本気の勝負をやってほしいということが大会の趣旨でございます。

県民の参加を促すという面では、こうした大会があるんだということで、当課にある事務局に県民の方から問い合わせも、ちらほらきているような状況でございます。こうしたものを契機として、昔やっていたスポーツをまたやってみたいとか、本格的にやってみたいという県民が増えてくれば、この大会の目的の一つにはなってくるのかなと考えており

ます。

○ 福島委員

スポーツマスターズ大会も大変必要なことだと思うのですが、昔、県民体育大会の2部や3部として、どなたでも参加ができる大会がありました。そういうものが必要なのかなと思います。

私もママさんバレーを連れてきて参加したことがあるんですが、スポーツ実施率について、49%を60%にしようということですから、あのような大会も必要なのかなと思います。もし、どなたでも参加ができる大会の開催を考えていただけるなら、スポーツ実施率も60%に近付くのではないかと思います。昔やっていた人がやることも大切かもしれませんが、そうでない方にスポーツをやっていただくことも必要かと思いますので、ぜひよろしくお願ひ申し上げます。

○ 小澤議長

ありがとうございました。ちなみに私は、現在、勤め先の神奈川県3部リーグの現役サッカー選手であります。20代、30代の若者とサッカーをやっておりまして、大変厳しいです。でも、私はスポーツが大好きですので、今後もそういうものに参加しながら、スポーツ振興に携わっていければいいなと思っております。

5 閉会 司会 市町村支援部スポーツ振興課副課長 大沢正雄